

“一勝地・成功間違い梨で広がる”関係人口および定住人口の創出

～豪雨災害に悩む熊本県球磨村の持続可能な村づくり～

熊本県立大学/井寺研究室チーム

中村将人、田中雄己、大山友結

地域課題の選択 ①「令和2年7月豪雨の被災地における地域の持続に必要な取組みについて」

1. はじめに

熊本県球磨村の産業基盤である農業は、農家の高齢化、若者の村外転出による担い手不足、令和2年7月豪雨の影響(農地の浸水・物産館など小売店の崩壊により農産物出荷停止による収益の大幅な減少)を強く受けた。今後、高齢化による農業の廃業者や離農人が増加する可能性が大きい。そこで、本提案では、収益確保を課題とし、村の農業生産の割合で半分以上を占める果物である『梨』の中でも、特にブランド梨である『一勝地梨』に着目して、課題の突破口を探求する。

一勝地は、従前から“一勝”地という地名の縁起の良さから、願掛けスポットが点在しており(一勝地駅、一勝地阿蘇神社等)、受験や大会の必勝祈願を目的とした訪問者が多かった。そのため、本提案では一勝地梨の強み、特に美味しさはもちろんのこと、「縁起」に関連した提案を行い、関係人口を創出していき、安定した収益確保を行う『稼げる農業』の実現により離農者に歯止めをかけ、更には新規就農者の増加を意図した持続可能な村づくりのための提案を行う。

2. 現状分析/調査内容

(1) 球磨村役場との意見交換会結果

① 令和2年豪雨災害による球磨村の農産業の変化

(売上げの経済推移、農家の人数)

球磨川の本流や支流に農地がある農家(主に稲作)の大半は、耕作地が復旧されておらず、農業による収益が大幅に減少している。また、遊水地計画が不透明で、今後農業を諦める人も出ると思われる。

② 令和2年豪雨災害による小売店への影響

被災した「かわせみ物産館」は休館中(復旧未定)である。被災した川の駅(民間事業者が経営)は復旧予定であるが、現時点は営業を行うことができない状態である。そのため、小売店への出荷できないことが収益減少の大きな要因である。

③ 球磨村の農家の内、個人事業主と農業法人の割合、また JA を通している農業者の割合

農業法人は設立しておらず、梨農家による組合組織がある。その他は、個人事業主がJAへの出荷や自家消費を行っている。

④ 球磨村の農業における課題

少子高齢化による、後継者不足をはじめ、不整備区画による生産条件が平地と比較して不利なこと、農業用施設の維持管理等の課題がある。また、高齢化や担い手不足により、水路などの維持管理が大変な状況となっている。

(2) 梨農家組合理事(犬童様)、毎床すなお梨園(毎床様)への質問結果

① 一勝地梨の販売先について

主に鹿児島市場、JA(人吉展開は豪雨により中断)、個人的な繋がり(洋菓子店、物産館へ展開)、ネット販売(アマゾン、楽天市場など)などがある。他集落と比較すると、若手の農業者がおり、創意工夫をしながら取組みを行っている。

② 一勝地梨の強みと弱み

強みとして、100年前から存在する歴史ある梨であり、地域特性(温暖差や球磨川の水源を利用)を利用した栽培を行っている。また、梨は加工品へ応用(梨ジャム、梨たれ)も可能である。その他にも、生産地区の毎床集落は水害に強いことも挙げられる。

他方で、弱みは、中山間地という農業をする上での条件の厳しさ、農地面積の狭さ(生産量少ない)、それにより大型機械を導入できない等が挙げられる。

3. 課題に対する解決策と具体的な政策アイデア

課題解決案として第一に収益確保を考えていきたい。そこで一勝地は“縁起”と関連した願掛けスポットが多数存在していることから、一勝地梨にも縁起と関連させた取り組みを提案する。

一勝地は、地名(ブランド名)に読んで字のごとく「勝」という字が入っている。そこで、勝負事や試験で勝つということと願掛けし「成功間違い梨」を販売する。島根県では台風被害の際に落ちなかった梨を「落ちない」ということにかけて販売した梨が非常に高い値段であったが多く売れたという事例がある。また、それに伴い梨農園の来訪者も去年と比較して 3,000 人増加している。そこで、一勝地梨も「成功間違い梨」というネームブランドをつけ販売することでそれが付加価値となり、受験生や試合を控えた人をターゲットとすることで、多少高値であっても収益に繋がるのではないかと考える。また、「成功間違い梨」を知られることで球磨村の知名度を向上させ、訪れたい考える人が増加することも期待している。

(1) 提案 その1

① 一勝地・成功間違い梨

上記の効果との相乗的な効果を期待して、梨のオーナー制度を提案する。球磨村は現在「米」のオーナー制度を実施しており、そのノウハウを活かし、梨オーナー制度も開始させる。具体的にはオーナーになってくれる人を募集し年会費を払って貰う代わりに、オーナーには一勝地梨の植え付け体験や収穫体験、また収穫した梨の自宅への配送サービスを展開する。この施策では一勝地梨のリピーター・ファンの創生とともに利益確保や知名度の向上が期待できる。

(2) 提案 その2

② 梨の苗木販売

この施策は梨を自宅で栽培したい人や、家庭菜園で梨の育成に興味がある人向けへの取り組みである。一勝地梨というブランド梨の苗木を販売し、購入者には梨の苗木とともに梨の育成方法を書いたパンフレッ

トを配布することによって一勝地梨を自宅で育てることを可能とする。本取組によって一勝地梨の売り上げを向上させると同時に、球磨村の知名度向上が期待できる。

(3) 提案 その3

③ 梨の加工品販売

「成功間違い梨」の販売だけではなく、梨の加工品の販売も提案したい。本提案では、梨の加工品として梨のジュース加工を想定して、企画を考察した。現在、球磨村には加工用工場がないことから、まずは食品加工場に一勝地梨のジュース製造を委託することによって、試行錯誤を繰り返しながら、制度の改善を図ることができないであろうか。他業者へ委託した場合、加工費が割高となり、利益が少ない点が課題ではあるが、美味しさの旬がある果物を長期間保存、販売することができる点は加工品のメリットである。また、加工品にすることで気軽に一勝地梨を食べることができる。更に、成功間違い梨の恩恵を得たい顧客層の増加を狙う意図もある。

4. まとめ・今後の展望など

私たちは球磨村の農産品ブランドである一勝地梨による関係人口を創出する3つの施策により安定した収益の確保を行い、『稼げる農業』の実現により、将来的には新規就農者の増加や定住人口の増加を目的とした提案を行った。今後の展望として、農家は豪雨災害による農地の維持などに精一杯であり、また加工品製造となれば、より多くの一勝地梨の生産が必要となる。

主要参考文献

- ・ RESAS : 地域経済分析システム
(<https://resaa.go.jp/#/13/13101> ; 2021年10月29日参照)
- ・ 球磨村『球磨村復興計画』
- ・ 市川市にある小宮梨園の美味しくて新鮮な梨
(<https://komiyanashien.com/> ; 2021年10月29日参照)
- ・ 小池手造り農産加工所 (<https://www.koike-kakou.co.jp/> ; 2021年10月29日参照)